

〈2〉 EU の対ロシア輸出禁輸は効いたのか

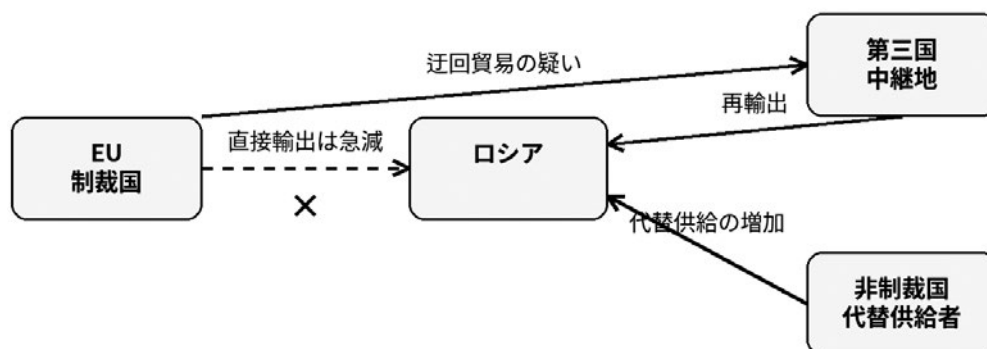
— 制裁対象品、第三国経由、代替供給を貿易統計から読む —

学習院大学 国際社会科学部 伊藤 匡

本稿は、学術論文「EU's Export Embargoes on Russia: Have They Been Effective?」の内容を再構成し

た解説原稿である。分析結果の概要は、以下の図のように示すことができる。

輸出規制の効果を弱める三つの経路



本稿のポイント：直接輸出は止まったが、第三国経由や代替供給によって一部が補われた。

図1 輸出禁輸の直接効果、代替供給、迂回貿易の関係（筆者作成）

はじめに：制裁は「効いた」のか、それとも抜け道があったのか

2022年2月、ロシアによるウクライナへの全面侵攻が始まると、欧州連合（EU）をはじめとする西側諸国は、過去に例の少ない規模の経済制裁を発動した。銀行取引の制限、ロシア産原油の輸入規制、中央銀行資産の凍結など、制裁の内容は多岐にわたる。その中でも本稿が取り上げるのは、軍事利用の可能

性がある物資や技術をロシアに輸出しないようにする「輸出禁輸」である。これは、ロシアの戦争遂行能力、とりわけ兵器の生産や修理に必要な部品へのアクセスを断つことを狙った政策である。

しかし、現実の国際貿易は単純ではない。ある国から直接買えなくなった商品でも、別の国を経由すれば手に入るかもしれない。あるいは、EU企業の製品を買えなくなったロシア企業が、中国、インド、トルコなどの企業から似た商品を調達するかもしれない。制裁とは、単にリストに商品名を書き込めば

終わる政策ではなく、世界中に広がるサプライチェーンを相手にした継続的な監視と執行の問題なのである。

論文「EU's Export Embargoes on Russia: Have They Been Effective?」は、この問題を国際貿易統計から検証している。問いは明快である。EU の輸出禁輸は、ロシアへの制裁対象品の直接輸出を本当に減らしたのか。減ったとして、その減少分は、ロシアに友好的な第三国からの輸出増によって補われたのか。さらに、その第三国向けに EU から輸出された品物が、ロシアへ再輸出される「迂回貿易」はどの程度起きているのか。

1 輸出禁輸とは何を止めようとする政策なのか

経済制裁という言葉を聞くと、多くの人は「相手国から物を買わない」ことを思い浮かべるかもしれない。たとえばロシア産原油の輸入を制限すれば、ロシア政府の外貨収入を減らせる。これは輸入側からの制裁である。これに対して、本稿の中心である輸出禁輸は、「相手国に重要な物を売らない」制裁である。目的は、相手国の収入を減らすというより、相手国が必要とする部品、機械、技術を手に入れにくくすることにある。

軍事力は、戦車やミサイルのような最終製品だけで成り立っているわけではない。そこには半導体、センサー、通信機器、測定器、カメラ、工作機械、航法装置など、多数の民生用にも使える部品が組み込まれている。こうした品物は一見すると普通の工業製品であり、家電、車、工場設備、通信機器にも使われる。しかし同時に、兵器や軍需産業にも転用されうる。そこで輸出禁輸は、軍事転用の可能性が高い品目を特定し、ロシアへの輸出を禁じる。

EU は、制裁対象品をいくつかのカテゴリーに分けている。論文で扱われる主なカテゴリーは、第一に兵器で実際に見つかりやすい半導体や航法装置などの「高優先品目」、第二にロシアの戦争遂行に重要と考えられる「経済的に重要な品目」、第三に民生用と軍事用の両方に使える「デュアルユース（軍民両

用）品」である。これらは国際的な商品分類である HS コードの 6 桁単位などで識別され、貿易統計上も追跡できる。もちろん、HS6 桁分類は個々の部品の細かい仕様までは示さない。それでも、制裁対象品がどの国からどの国へどの程度動いたのかを大きな流れとして把握するには有効な出発点となる。

輸出禁輸の効果を考えるときに重要なのは、直接効果と間接効果を分けて考えることである。直接効果とは、EU からロシアへの対象品輸出が減ることである。これは比較的測りやすい。問題は間接効果である。ロシアが別の国から同じような品物を買うようになれば、EU からの直接輸出が減っても、ロシアの調達能力はそれほど落ちないかもしれない。さらに、EU から第三国へ輸出された対象品が、その後ロシアへ回れば、制裁は形の上では守られていても、実質的には抜け道が生じていることになる。

2 この論文が注目する三つの経路

論文の基本的な見取り図は、三つの経路で説明できる。第一は、EU からロシアへの直接輸出である。制裁が効いていれば、この経路は 2022 年以降に大きく縮むはずである。第二は、ロシアが EU 以外の国から制裁対象品またはそれに近い品物を買う経路である。これは「代替供給」と呼べる。たとえば中国やトルコの企業がロシア市場で EU 企業の穴を埋める場合である。第三は、EU からいったん第三国へ輸出された品物が、同じ HS6 桁品目としてロシアへ輸出される経路である。これが「迂回貿易」である。

三つの経路は似ているようで、政策的な意味が異なる。EU からロシアへの直接輸出が減ったことは、制裁リストと輸出管理が少なくとも形式的には機能したことを示す。代替供給が増えたことは、制裁国だけでは世界市場全体を完全には閉じられないことを示す。迂回貿易が確認されれば、輸出先審査、最終需要者確認、販売代理店や再輸出業者の監視が十分ではない可能性を示す。したがって、単に「ロシアへの輸出が減ったか」だけを見ても、制裁の実効性は評価できない。

論文が特に注目する第三国は、カスピ海沿岸国（ア

ゼルバイジャン、イラン、カザフスタン)¹、中国、インド、トルコである。カスピ海沿岸国は地理的にロシアへ近く、物流経路として迂回輸出の可能性があり、一部ニュースなどにおいてもその可能性が指摘されている。中国、インド、トルコはロシアの主要な貿易相手国であり、非制裁国または制裁に全面的に参加していない国として、ロシアへの供給源になりうる。ロシア政府が公表した「友好的・中立的」な国々のリストにも、これらの国々が含まれる。

もっとも、ここで注意が必要である。第三国からロシアへの輸出が増えたとしても、それだけで違法な迂回貿易があったとは言えない。第三国企業が自国で生産した品物をロシアへ売っただけかもしれないし、ロシア国内の需要構造が変わっただけかもしれない。そのため論文は、単純なグラフだけでなく、重力モデルやイベントスタディ分析などの計量経済学における分析法を用いて、制裁後に特定の流れがどの程度変化したかを分析している。

3 データ：世界貿易統計から何を読むのか

分析に使われた主なデータは、国連の UN Comtrade である。これは各国が報告する貿易統計を集めた国際データベースで、どの国がどの国へ、どの HS コードの商品を、いつ、どれだけ輸出したかを調べることができる。論文は 2019 年から 2024 年までの年次データを用いている。侵攻前の 2019 年から 2021 年、侵攻後の 2022 年から 2024 年を比較できるため、制裁前後の変化を追うことができる。

商品分類は HS6 桁である。HS コードとは、国際貿易で商品を分類するための共通番号で、6 桁までは国際的に共通している。たとえば同じ「半導体」でも細かな仕様はさまざまだが、HS6 桁なら国際比較が可能である。論文は、EU の制裁リストに含まれる高優先品目、経済的に重要な品目、デュアルユース（軍民両用）品を HS6 桁単位で特定し、それらの輸出の動きを調べている。

データを見るときに難しさは、貿易統計が「品物の最終用途」を直接教えてくれないことである。あ

る電子部品が民生用に使われたのか、軍需用に使われたのかは、通常の貿易統計だけでは分らない。また、第三国からロシアへ輸出された品物が、その第三国で生産されたものなのか、EU などから輸入されて再輸出されたものなのかも、HS6 桁の集計データだけでは完全には区別できない。論文が「迂回貿易の証拠はニュアンスがあり、限定的」と慎重に表現するのは、このデータ上の限界を踏まえているからである。

それでも、貿易統計には大きな強みがある。個別の押収品や兵器分解調査は、具体的で説得力がある一方、対象が限られる。これに対し、UN Comtrade を使えば、多数の品目と多数の国について、全体としてどのような構造変化が起きたのかを把握できる。つまり、兵器から見つかった部品の「点」の情報を、貿易統計の「面」の情報で補うことができる。

4 まず見える変化：EU からロシアへの輸出は急減した

論文の記述統計で最初に確認されるのは、EU からロシアへの制裁対象品輸出が 2022 年以降に大きく減ったことである。2019 年を 1 として基準化したグラフを見ると、デュアルユース（軍民両用）品（図 2）、経済的に重要な品目（図 3）、高優先品目（図 4）のいずれについても、ロシア向けの線は 2022 年から急に下がる。特に高優先品目では、ロシア向け輸出がほぼ消えるような形で落ち込んでいる。

この結果自体は驚きではないかもしれない。EU がロシアへの輸出を禁じたのだから、公式統計上の直接輸出が減るのは当然に見える。しかし、政策評価としては重要である。制裁は発表されただけでは意味がない。企業が実際に輸出を止め、税関や輸出管理当局がそれを実施し、データ上でも確認できる必要がある。論文の第一の発見は、この直接的な実施効果が非常に大きかったということである。

ただし、この段階ではまだ「制裁がロシアの調達能力をどれだけ弱めたか」は分らない。EU から買えなくなった分を、ロシアが別の国から買えたなら、直接輸出の減少は最終的な効果を過大に見せる

¹ トルクメニスタンは、貿易データを公表していないため、本研究には含まれていない。